

眼科紹介

眼科外来は毎週火曜・木曜（午前・午後）、水曜（午前）、金曜（午前・午後（予約のみ））で、常勤医師1名、非常勤医師2名とともに、看護師・視能訓練士が検査・治療に携わって診療を行っています。

また、数多くの検査機器、最新の手術機器を取り揃えそれぞれの患者様に正確な診断と最善の治療が出来るように検査を行っています。

年間の手術件数は170例で、主として白内障の手術を行っています。白内障手術は片眼ずつ1泊2日の入院で行うことが可能です。また、黄斑疾患に有効な硝子体内注射も年間50例ほど実施しており、こちらは日帰りで実施することが可能です。

検査機器としては、OCT（眼底三次元画像解析）を導入し、加齢黄斑変性に対する硝子体注射治療にも対応しています。また網膜硝子体手術機器であるコンステーション（Alcon社）を導入し、黄斑前膜、黄斑円孔、増殖糖尿病網膜症などの網膜硝子体疾患の手術加療も対応しております。詳しくは診察をお受けになっていただきご相談ください。

眼科の医療機器

（OCT 眼底三次元画像解析装置）

光干渉断層計(OCT)とは、網膜（カメラで例えるとフィルムにあたる部分）の断層画像を撮影する検査です。これにより従来の診察や眼底検査だけでは分かりにくい網膜の状態が明らかになり、断層像から網膜のむくみの程度や出血の範囲・深さなどを見ることができ、より正確に病気の診断をし、今後の治療方針の決定や治療効果の判定を行うことができるようになりました。



（硝子体手術装置『アルコン社製コンステーション』）

最新の硝子体手術装置・アルコン社製コンステーションを採用しております。高性能な硝子体カッターを備えたこの機器は最新の極小切開手術にも対応可能であり、あらゆる硝子体疾患に対し幅広い術式、きめ細かい手技に対応することができます。手術顕微鏡に設置している広角眼底観察システムと組み合わせることにより、眼底全体の状態を把握しながら、硝子体手術をさらに効率よく安全におこなえるようになりました。

